



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

町内および院内防災訓練のご報告

心理療法士主任 前上里 泰史

11月5日(火)の津波防災の日に合わせて、琉球病院所在地の金武町では、町内で防災訓練が実施されました。定時に町内に防災無線が流れ、携帯電話等に緊急速報と避難指示のお知らせが流れ、町内各所で避難訓練が行われました。当院ではこの町内訓練に合わせ、院内で防災訓練を実施しました。今回の院内訓練では、院内対策本部設置までの初動体制の確立、院内の情報収集および災害拠点精神科病院として患者さん受入れに向けた準備を目標に実施しました。具体的には、予め院内の被災状況を記載したアクションカードを各部署に配布し、緊急地震速報と共にアクションカードを見て、各部署で被災状況を確認し、対策本部に情報をあげる、各部署で生じている事態に対応する、などを課題にあげ訓練を実施しました。昨年も同様の訓練を実施した結果、情報が錯綜し、院内の被災状況がわからなかったこと、対策本部の体制構築ができなかったことが反省点としてあがりました。これらの反省点を踏まえ、今年度は院内の被災状況が一覧でわかるようテンプレートを用意し、指揮・命令系統を明確にすることで昨年度よりもスムーズに対応できました。訓練開始から15分で対策本部体制が構築され、開始40分で院内の被災情報はあがってきましたが、病院としての診療機能を維持できるかどうか、判断するには至りませんでした。このことから、被災状況の集約とアセスメントが課題にあげられました。

また、当日は沖縄県内の災害拠点精神科病院平安病院 DPAT の皆さんにお越しいただき、訓練の様子を見学され、コメントをいただきました。

院内防災訓練は、職員の災害対応や防災意識の向上につながっているものと考えております。今後、病院職員が変わっても災害対応ができるよう、また訓練が形骸化しないよう緊張感をもって実施していきたいと思っております。



地域医療連携室だより

精神保健福祉士 平良 博之

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。

一般的な精神疾患をはじめ、アルコール依存症や薬物依存症などのアディクション全般、治療抵抗性統合失調症薬(クロザピン)治療、認知症、児童思春期外来といった患者さんのニーズに対応できるよう診療体制を整えております。中北部圏域を中心とした地域の皆様により良い医療を提供し、適切な対応ができるよう日々心がけております。

初診をはじめ、受診については予約制となっております。また入院治療や入院環境に関してのご質問等もお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

今年も地域の皆様には大変お世話になりました。体調管理に留意し健やかな新年を迎えられますことを祈念致します。

院長

ふくじ やすひで
福治 康秀



1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリン外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より
沖縄バス「77 番名護線」浜田バス停
下車徒歩 3 分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道道金武
インターから名護向け 5 分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ427例になりました。2024年10月のCLZ登録症例は3例で、このうち他の精神科病院に入院していた紹介患者さんが1例、他の精神科病院に通院していた紹介患者さんが1例、当院入院中の患者さんが1例でした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実践については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ(<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

アルコール依存症病棟近況報告

東Ⅲ病棟看護師長 照屋 純二

今年度、106名(令和6年10月31日現在)の患者さんが入院いたしました。入院中は豊富なプログラムを医師、看護師、心理士、作業療法士など多職種が専門性を発揮して運営しています。また、断酒会やアルコール依存症からの回復を目指したAA(アルコホーリクス・アノニマス)、薬物依存症からの回復を目指したNA(ナルコティクス・アノニマス)などの自助グループの協力があり回復の力となっています。退院された方が、断酒会で語っている姿や、外来終了後に来棟され「もう〇ヶ月酒やめてるよ」などの声を聴くと、患者さんだけでなくスタッフも励まされています。

また、個室3室をリニューアルしました。有料ではありますがご希望の方はご利用いただけます。今後も、患者さんに少しでも満足していただくために、多職種が知恵を出し合って療養環境を整えていきたいと思っています。

お酒をやめたくてもやめられない方、飲酒問題で困っているご家族の方、ひとりで悩まずぜひ専門スタッフまでご相談ください。どうぞよろしくお願い致します。

医療観察法病棟紹介

西Ⅲ病棟看護師長 湧川 傑

当病棟は医療観察法の指定入院医療機関として運営しています。医療観察法は、心神喪失または心神耗弱の状態で大な他害行為を行った者が裁判所の命令で入院し、病状の改善と同様な他害行為の再発防止、社会復帰を促進することを目的に入院治療する病棟です。また、医師・看護師・公認心理師・作業療法士・精神保健福祉士の5職種で、チームを編成し専門性の高い治療を行っています。また、急性期・回復期・社会復帰期の治療ステージだけでなく、疾患、重複障害などの個別性に合わせた多様な治療プログラムを提供しています。

開棟17年が経過し、以前は県外の方も多く入院されていましたが、全国的に医療観察法病棟が整備され、現在は沖縄県の方を中心に受け入れており、那覇保護観察所や県内の指定通院医療機関、地域支援者と連携し、社会復帰を促進しています。

こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

発達障害を含む、子どもの情緒面・行動面についての相談では、子どもへのアプローチだけではなく、周囲の方の理解や関わりが重要になります。そのように発達障害のある子の保護者に、子どもの特性を理解してもらい、対応を学ぶためのプログラムとしてペアレントトレーニングがありますが、こども心療科ではADHDに特化した内容のペアレントトレーニングプログラム「ウェル・ペアレント・ジャパン(Well Parent Japan: WPJ)」を実施しています。WPJは、イギリスで開発されたADHDに特化したペアレントトレーニングプログラムである「ニューフォレスト・ペアレント・プログラム」を基に、OISTの島袋静香博士が日本版として改定したもので、これまでの研究によってその効果が実証されています。

これまで琉球病院もOISTと協力して、多くの保護者グループにプログラムを実施しており、参加された保護者の皆さんがADHDに関する知識を身につけ、それぞれの苦勞に共感しあったり、関わりのアイデアを出し合いながら、お互いの力を引き出しあっていく過程と一緒に体験させてもらいました。今年度も、グループの開催に向けて準備を進めており、より多くの方に参加してもらえればと考えています。

秋の食材「秋刀魚」「梨」を提供しました

管理栄養士 村上 悠華

沖縄もやっと過ごしやすくなりました。入院中でも季節を感じていただけるよう、秋に旬を迎える「秋刀魚」「梨」を提供しました。

秋刀魚にはDHA(ドコサヘキサエン酸)が豊富に含まれています。DHAは青魚に含まれる脂質の一種で、中性脂肪を下げ、循環器疾患を予防する機能があると言われており、認知機能低下や認知症の予防効果も期待されています。DHAは秋刀魚以外に、サバやマグロにも豊富に含まれていますので、肉食に偏ることなく、魚を積極的に取り入れ、健康的な食生活を目指してみたいと思います。

